

小堀 しづ

陽子は 1836 個の電子が集まってできたものではない。なぜなら陽子を解体しても 1836 個の電子はできないからです。また電子と陽子の回転方向は逆であるからです。それではどのように陽子と電子はできたか。マイナスの宇宙に於いて、原子のように、外側を電子に成る電磁気が回転し、その内側を陽子に成る電磁気が回転していた。その軌道差は 1836 倍です。陽子ができる電磁気の回転方向を+とすると、電子ができる電磁気の回転方向は-です。電子のエネルギーが 1 J に成り電子はできた。電子のエネルギーが 8.665J に成りビッグバンは起きた。宇宙の方程式は軌道×エネルギー=8.665×10⁻²⁴Jm であるからです(特願 2007-112389)。その電磁気数は、地表なら 7.028×10¹⁷ 個ですが、マイナスの宇宙のエネルギーは地表の 3×10⁸ 倍ですから、7.028×10¹⁷ 個÷(3×10⁸)=2.343×10⁹ 個でできる。それで、電磁気 1 個のエネルギー×(2.343×10⁹)²=1 J。電磁気 1 個のエネルギー=1 J÷(2.343×10⁹)²=1.821×10⁻¹⁹J。マイナスの宇宙の原初の電磁気 1 個のエネルギーは 1.821×10⁻¹⁹J です。それは石を溶かす電磁気のエネルギーです(特願 2006-35755)。回転が逆の電磁気は放出する方向を逆に放出する。陽子に成る電磁気 1 個のエネルギーは 1836×1.821×10⁻¹⁹J=3.343×10⁻¹⁶J、です。マイナスの宇宙に存在する原子数は 1.0765×10⁷⁹×a⁶ です。a は電子のラブのエネルギーです(特願 2009-218192)。マイナスの宇宙に存在する電子に成る電磁気は 1.0765×10⁷⁹ 個×2.343×10⁹ 個です。ビッグバンが起きるとき、電子のエネルギーは 8.665J です。1.821×10⁻¹⁹J×電磁気数²=8.665J。電磁気数=(4.758×10¹⁹)^{1/2}=6.898×10⁹ 個。この場合の原子数は、1.0765×10⁷⁹×8.665⁶×6.898×10⁹ 個、です。1 J は地表のエネルギーの、1 J÷(8.187×10⁻¹⁴J)=1.221×10¹³ 倍です。これは「質量を作るための定数」1.421×10¹³ です(特願 2015-093867)。